

かもあおい

創刊号

賀茂高等学校
同窓会 会誌 Vol.1

平成21年8月2日発行
発行

賀茂高等学校 同窓会事務局
東広島市西条西本町16-22
TEL (082) 423-2559



賀茂高等学校
同窓会
会長 黒川 浩明

同窓生のさらなる交流を目指して

賀茂高等学校同窓会誌第一号を発行することができました。発行にご協力をいただきました皆さまに心から感謝を申し上げます。

賀茂高等学校は設立から一〇〇年を超え、誇るべき長い歴史と多くの同窓生を擁しています。

昨年八月三日に行った同窓会には、賀茂高等女学校時代に卒業された、八〇歳を超える同窓生もご出席をいただきました。そして、「あしたさ

やかに白鳥の・・・萌えし園生の若さゆり」と当時の校歌を歌いながら、賀茂高等女学校で学んだ自負を今も失くさないで活躍しておられる同窓生に感動し、私も元気をいただきました。

高校は、地域で育ち、勉強し、多くの友人をつくりながら、卒業し、そしてそこから大きく社会や他の地域に飛び立っていき、人生のひとつの大事なスタート台であるとともに、卒業生にとっては、時として、ふらりと帰ってくる、忘れられない故郷でもあります。そして、同窓会は、そういう同窓生の思いを繋ぐ細い糸のようなものではないでしょうか。同窓会の活動を少しでも元気にできないものかと、事務局や組織の見直

し、ホームページの充実など、皆さんからいろいろのご意見をいただきました。また一〇〇周年を迎え、それを大きな区切りとして、次の新しいステップを踏み出すことも必要だと思えます。

しかし、一度に多くの取り組みを実施することは困難です。一歩一歩、できることから着実に進めていくことが肝要でしょう。

この会誌では、同窓会からのお知らせ記事や高校の現況報告とともに、より多くの同窓生の活動状況が紹介できればと思います。そして、この会誌が、現在の高校と同窓生を繋ぎ、同時に同窓生の交流の輪をさらに大きく広げるものとなることを切に願っています。

ご挨拶

同窓会員の皆様には、日頃より母校の教育発展に多大なご支援とご協力をいただき、ありがとうございます。同窓会のさらなる発展を期して同窓会誌「かもあおい」が発刊されることとなりましたことを、心よりお祝い申し上げます。

本校は今年度で創立一〇三年を迎えます。記念すべき創立百周年の記念式典から三年を経、本校は東広島



広島県立
賀茂高等学校
校長 奥田 浩久

地域における伝統校としてリーディングスクールの役割を果たし、将来数十年後も地域で最も信頼され、輝き続ける学校であるため、学校ビジョンを策定し、充実した教育活動を日々推し進めています。本校教育の使命は知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成にあります。従来より本校は文武両道を掲げてきましたが、今年度はこの理念をさらに進め「一人ひとりの文武一致」を教育目標といたしました。勉学を行う際は、部活動で養った集中力や体力を発揮させ、部活動を行う際には、主体的に考え行動することの大切さを学ばせています。

学力面については、地元広島大学を中心に国公立大学を多くの生徒が志望し、目標の実現に向けて、日々の授業に真剣に取り組み、学力向上の成果が表れつつあります。生活指導面では、今年「品格」のある行動や服装・言葉使いができるよう指導しています。制服の着こなしも端正となり、校内では気持ちの良い挨拶が交わされています。本校は今後も勉学や部活動を通して人格教育を推進し、二十一世紀の日本や広島県・東広島市の発展を担う人材を育成してまいります。同窓会員の皆様には、今後とも本校の教育活動に對しまして、益々のご理解とご協力を戴きますようお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

誇りの母校 賀茂高校



第7回卒業生
近藤 五十憲

私は、生徒、母校教員として賀茂高校で実に二一年を過ごした。振り返ってみると、私の生き方の拠り所には、賀茂高校の校是「信・敬・愛」の考え方があった。

戦後の学制改革で賀茂高校が再出発した年の入学生である。新たな学校の礎を確かなものにしてという先生方の意気は、生徒にも伝わった。新生賀茂高校の初代校長長広安文一は、ことある毎に「己を信ずる如く他を信じ、己を敬する如く他を敬し、己を愛する如く他を愛せ」と話された。これがやがて、校是となったものだ。また、恵谷文男教頭に、特別授業のなかで孝経の一節を教わった。

身体髪膚、之を父母に受く。敢えて毀傷せざるは、之孝の始めなり。

七歳の時自分の不注意で、右目を傷つけ失明した私は、事故時以来、親に計り知れない心配を掛けられていることに気づかされた。何より大事なものは、自分を大切にすることだと。これが私の生涯を貫く指針になった。賀茂高校に学んだことを誇りに思い、感謝している。

賀茂高校創立八十周年事業に取

り組んでいるところ、当時の同窓会土肥浩右会長が、茶話会的な雰囲気なかで、「賀茂の卒業生は、各界で活躍している人は沢山いる。どこかの卒業生のように、汚職事件で新聞種になるようなものはない」と。賀茂高校の校是が、人の心のあり方を大切にしたいものであり、在学中にそれほど感じなかったかも知れないが、卒業後も生き続けている証しと思う。百周年記念事業の記念碑に刻まれている「耕心田」も同様の意義を持つものである。

私は、縁あって創立八十周年、百周年の二つの記念誌編集に深く関わった。この記念誌編集作業で一番印象的だったことは、現在の賀茂高校創立記念日五月十五日にまつわる新たな発見であった。創立記念日は、京都の賀茂神社の例祭日に由来すると聞いていた。八十周年記念誌を編集するに際して、創立当時の状況を調べていたとき、私立西条女学校第一期生十六名の入学許可の日付が、くしくも五月十五日であることがわかった。こ



れぞ創立記念日にふさわしい根拠になると感激したものだ。創立者西島嘉六は、当時賀茂台地に女子中等教育を担う学校がないことを憂い、私立西条女学校を一九〇六（明治三九）年に発足させた。一九一一年に、私立西条実科高等女学校へと発展していった。一九二三年には、西条町他による学校組合立となり、校名も広島県賀茂高等女学校に変わった。校地も西条駅北から、現在地に移転した。さらに三年後には、県に移管され、広島県立賀茂高等女学校と改称された。公立化十周年記念行事は、三日間にわたって行われ、県内外からの来賓も迎え、高等女学校のモデル校と讃えられ、大きく新聞報道もされた。

やがて、日本は軍部専横の時代を迎えることになった。まだ一六歳にならない女生徒たちの学習時間を軍服縫製の作業や、兵器庫での労働に向かわせるなど、多くの犠牲を強い太平洋戦争。敗戦決定後も原爆被災者救援活動に動員され、二次放射能の影響に今なお苦しむ先輩達もいる。

戦後、民主主義の導入は、価値観の大転換であった。学校も大きく変わった。旧制の中学校、女学校は解体し再編され、新制中学校、高等学校ができた。学区性・総合制・男女共学制の三原則に従った

高校として、普通科・家庭科・農業科を持つ広島県西条高等学校が発足した。一九四九（昭和二四）年四月であった。しかし、戦後復興を担う若い力を期待して、産業教育の振興が叫ばれ、普通科教育と職業教育の分離独立を理由に、西条農業高校と賀茂高校に再々編成された。一九五三（昭和二八）年である。

新制の広島県賀茂高等学校は普通科と家庭科だった。校章も、校歌も翌年になってできた。生徒会設立の全校集会で、二年生竹井清先輩の手際の良い進行振りに感じ入った。初代生徒会長は、三年生年竹井さんが生徒会長を務めた。同窓会の歴史の概略に触れておこう。賀茂高等女学校同窓会は一九二四（大正十三）年二月に発会式を行っている。同窓会が、明文の規約を持つ組織となったのはこのときが最初である。現在と違って、会長は母校の校長、副会長は母校主席教諭となっていた。目的として、会員の修養と親睦を掲げ、発足当初には、たとえば「家事及び手芸講習会」なども開催していた。戦時体制下には、一部同窓生

まで、女子挺身隊として動員された。戦後の高校再々編成に合わせて、一九五三（昭和二八）年五月に、賀茂高等学校同窓会も設立された。「本会は、会員相互の修養と親睦とにつとめ、併せて母校の事業を援助するを以て目的とする」と規定している。初代会長には、西条実科高女卒業の堀井栄さんが選出された。第三代会長竹井清さんは、賀茂高校卒業生の初めての会長で、今日の同窓会の基礎固めをされた。第四代の土肥浩右会長は、母校創立八十周年記念事業で、また第六代の普川健二会長も、創立百周年事業で、ともに実行委員長として、大任を果たされた。現在の会長黒川浩明さんは、本同窓会を魅力ある、活力に溢れたものにしてしようと奮闘されている。



私は、自他共に育つ「信・敬・愛」の行動理念を大切にす高邁な理想を掲げる母校に支援を続ける同窓会員の一人であり続けたい。



100周年記念写真 平成18年10月12日撮影

「岡崎 紀」展 開催される 併せて代表作を同窓会に寄贈



川崎 信文さん
広島大学
大学院社会科学部研究科 教授
平和科学研究センター長

略歴
1951年 東広島市生まれ
1970年 賀茂高校卒業
1975年 広島大学政経学部卒業
1982年 名古屋大学法学部助手
1992年 広島大学法学部教授
1994年 フランス、ボルドー政治大学客員教授
2004年 広島大学大学院社会科学部研究科教授
広島大学大学院社会科学部研究科長
2008年 広島大学平和科学研究センター長

第56回同窓会
総会で講演会開催

高校生と大学生の境目

教員として大学に籍をおいて30年近くなり、大学入学から起算すれば、この世界ですでに40年経過したことになる。この間、学生の気質が大きく変わっても不思議ではない。

それにしても、学生がほぼ100%、ノート筆記に0.5ミリのシャーペンを常用するようになったのはいつからのことか。宴会は色つきカクテルの乾杯で始まり、不健康の代名詞、麻雀族は今や希少動物。卒業旅行は高校生もするらしく、2月14日にはチョコが届き、新歓コンパでは一発芸を難なくこなす。授業評価をすれば、板書に注文が集中し、要点はここが大事と強調せよという。おまけに保護者に成績表が届くようになった。

大学生が幼くなったのか、高校生の大人化が進んでいるのか。両者の境目は、それぞれの教員の仕事と同様に、ひたすら曖昧となっていく。入学祝いに万年筆をもらった。一人で喫茶店に入って東の間の孤独に浸った。先輩達はいかにも大人にみえた。飲み会では政治談義に背伸びし、半数が沈没した。講義の合間、普段は厳めしい教授とともに紫煙を楽しんだ。

40年前の18の春には、今よりはっきりした境目があったような気がする。だが、ただ単に西条が田舎だっただけなのかもしれない。(川崎先生に原稿をお願いしました。ありがとうございました。)



賀茂高校の同窓生(昭和32年卒)、岡崎紀多摩美術大学教授(展覧会当時)の、郷土ゆかりの画家「岡崎紀」展が本年2月18日～3月1日、東広島市民ギャラリーで開催されました。併せて開催を記念し、賀茂高校同窓会に250号の大作「ある風景」を寄贈いただいた。

この作品は、先生の近年のテーマである「自然をモチーフに、雄大さ、生命力、光と風など、人間のたちうちできないような大きなものを造形しよう」を具象化した、力強く、爽やかな作品である。新体育館一階に展示させていただき、

演では、西条小・西条中・賀茂高校と地元で成長し、西条地域の自然や風土が作品の原点となっていること、高校時代は美術大学に合格するため、毎日放課後広島市までデッサンの勉強に通った苦勞も紹介されながら、好きな道であるからこそ困難を困難とも思わず、自分の生涯を絵の道一筋に貫くことができた、と後輩たちに自ら信じる道を進むことの大切さを話された。

先生の母校へ寄せる深い愛情に感謝しつつ、同窓会として大切に作品を保管させていただきます。

岡崎 紀さん 多摩美術大学名誉教授

略歴
1938年 東広島市生まれ
1957年 賀茂高校卒業
1961年 多摩美術大学絵画科油絵専攻卒業
1960年 「新製作展」新作家賞をはじめ受賞多数
1968年 多摩美術大学大学院修了・新制作協会会員
1990年 多摩美術大学絵画科油絵専攻教授
2009年 多摩美術大学名誉教授

生徒も日常的に絵画に親しませていただいている。

また、この機会に、賀茂高校1・2年の生徒(640名)に講演をいただいた。講

ガンバレ矢田貝静江選手 アーチェリで世界へ挑戦

矢田貝 静江さん 株式会社デオデオ

略歴と成績
2007年 賀茂高校卒業 株式会社デオデオ入社
2008年 世界室内選手権 国内最終予選3位・全日本選手権8位
2009年 全日本室内選手権23位
世界選手権第二次選考会10位 世界ターゲット選手権8位

三位に入り、北京オリンピック個人六位入賞の早川浪さんらとともに日本代表となった。世界選手権では、団体戦女子で惜しくもロシアに準準決勝で敗れたが、矢田貝さんのこの快挙に対し、同窓会では賀茂高校にお祝いの



矢田貝静江さん(平成十九年卒、株式会社デオデオ)が、インドアーチェリー(リカーブ女子)で、本年三月にポランドで開催された世界選手権に出場した。矢田貝さんは、昨年十二月に東京武道館であった最終選考会で



次の目標はロンドン五輪出場。出場枠の三名に入るための厳しい練習と戦いが既に始まっている。大いに期待し、応援したい。

横断幕を掲げ、応援をした。インドアーチェリーは、弓の違によりリカーブとコンパウンドがあり、室内で十八メートルの距離にある標的を射て点数を競う。矢田貝さんは高校でアーチェリーを始め、デオデオに入ってから大きく成長した。技術を高めるためには、「自分のクセを知り、その上でどうしたいと言う強い思いを持つこと、要は自分を知ることが必要」と言う。そして「的に矢が当たるイメージを持ち続けることが好成績に繋がる」と精神力を強調する。

学園祭で 合唱コンクール復活

本年度の学園祭(賀茂祭)が六月二十六日(金)二十七日(土)の両日開催されました。今年度より、久しく中断していた合唱コンクールが再開されました。より文化の薫る賀茂祭とすべく、二年生十五クラスが思い思いの曲を選曲し、練習の成果を発表しました。初回ということで、準備にも手間取りましたが、コンクール当日は各クラスとも高校生らしい清々しい歌声を、体育館全体に響き渡らせました。そして合唱を通してクラスの団結や絆を深めました。なお、伴演のピアノは同窓会より寄贈いただいたサインウエイを活用させていただきました。



進路実績

今年度、新入生280名を迎え、生徒数906名で学習や部活動に励んでいます。平成20年度の進路実績は表のとおりです。

国立大学	合格者数	公立大学	合格者数	県外私立大学	合格者数	県内私立大学	合格者数
広島大学	8	県立広島大学	9	慶応義塾大学	1	比治山大学	7
山口大学	8	広島市立大学	6	早稲田大学	2	広島経済大学	22
富山大学	1	都留文科大学	2	日本大学	1	広島工業大学	7
和歌山大学	1	山口県立大学	1	明治大学	1	広島修道大学	39
神戸大学	1	高知女子大学	1	神奈川大学	2	広島学院大学	9
愛媛大学	3	尾道大学	2	京都外語大学	1	広島国際学院大学	5
岡山大学	1	下関市立大学	1	京都女子大学	1	広島文教女子大学	4
宮崎大学	1	公立短期大学	合格者数	近畿大学	38	福山大学	4
北見工業大学	1	島根県立大学	1	立命館大学	5	安田女子大学	27
		福山市立女子大学	9	関西外語大学	2	広島国際大学	58
				関西大学	2	日赤広島看護大学	3
						広島文化学園大学	4
						福山平成大学	3
						広島都市大学	1

部活動トピックス

優秀な成果をあげてきています、今後も生徒の活躍にご期待ください。

- <運動部>**
今年度、高校総体には14種目、男子93名女子87名の計180名が出場しました。その中で、中国大会参加は次のとおりです。
●女子ハンドボール部 ●新体操部 ●女子卓球部(団体・個人)
●女子陸上部 ●男子ソフトテニス部(個人)
- <文化部>**
文化部でもさまざまな賞を頂いています。
●文芸部:俳句甲子園 最優秀作品 ●書道部:広島県高等学校総合文化祭書道部門優秀賞(全国総合文化祭 三重大会(8月)に参加決定) ●美術部:第88回全国高校サッカー選手権大会広島県大会の大会プログラム表紙デザイン採用
●美術(授業の一環):愛鳥週間ポスター 特賞(広島県知事表彰)

高校 **だ** 活動 **よ** 同窓会 **り**

広島県立 賀茂高等学校
1986年卒業生
同窓会 ホームページ

「3ねん3くみの会」
大なることは出来ないか?という発足のコンセプトですが、未だ何も出来ておりません。
偉業といえは、秋に開催する「生活科」の合同クラス会(クラス会)に始めて女性が参加してくれませんか?でしょうか。皆それは楽しみにしております。

昭和三十七年卒業の三年三組(賀茂高校の歴史に残る初めての不幸な男だけのクラス)だった有志で新聞を発行している。年四回発行の新聞の中心は、会社のこと、世間のこと、政治のこと、いろいろと思いつくことや、気になってくること、自慢話などを、自由に投稿して構成している。
人生六〇数年を生き、それぞれのプロフェッショナルが時間を持て余しているものもいます。そんな人達が「力を合わせて、何か偉大なこと出来ないか?」という発足のコンセプトですが、未だ何も出来ておりません。

このホームページを通し、賀茂高校の同級生への情報発信をしていきたいと思えます。これからの同窓生同士のコミュニケーションをはかる一助になればと思えます。22年ぶりの同窓会をきっかけに、新しい絆が生まれることになれば大変うれしいことです。(ホームページの「はじめに」から引用)
<http://www.kamo86grad.com/>にアクセスしてみてください。

編集後記
色々ありました。真剣な議論が何年も続きました。なかなか難しい同窓会活性化議論。しかしここに来てやっと新しい一歩がスタートしました。それがこの広報誌「かもあおい」です。小さな一歩なのかもしれませんが、でも

昭和三十七年卒業の三年三組(賀茂高校の歴史に残る初めての不幸な男だけのクラス)だった有志で新聞を発行している。年四回発行の新聞の中心は、会社のこと、世間のこと、政治のこと、いろいろと思いつくことや、気になってくること、自慢話などを、自由に投稿して構成している。
人生六〇数年を生き、それぞれのプロフェッショナルが時間を持て余しているものもいます。そんな人達が「力を合わせて、何か偉大なこと出来ないか?」という発足のコンセプトですが、未だ何も出来ておりません。

同窓会事務局だより
▼二年間の事業活動
理事会・評議員会を二回、理事会を一回開催し、予算・決算、総会・懇親会の開催、同窓会の活性化等について、熱心な審議を行った。そして活性化については、四回の検討委員会で議論し、先ず会誌の発行に取り組みむこととした。また昨年八月三日には例年通り総会・懇親会を開催し、さらに本年二月二十七日には二七〇名の新入会員を迎えた。
▼第五回総会・懇親会の開催
グランラセーレ東広島で、約三〇名の出席により開催した。総会後、加藤秀視氏による「人はいつでもどこからでも変われる」と題した講演を聴き、懇親会では同窓生と食事や会話を楽しみ、ビンゴゲームや歌謡ショーに盛り上がった。最後は、賀茂女学校・西条高校 賀茂高校の校歌を懐かしく合唱した。

かもあおい
題字「かもあおい」の筆者 書道家 湯浅宏子(十三回卒業生)
流派 洗心流 雅号 雅清
平成十二年 師範
平成十八年 七段
平成十九年 東広島市美展 つじ賞受賞

「賀茂高校同窓生の誇り」がさらに増すことを期待してやみません。
「賀茂高校同窓生の誇り」がさらに増すことを期待してやみません。

違わなく歴史的な一歩です。黒川浩明会長新体制のもとではじめて「同窓会活性化委員会」が組織されました。月一回程度会合が持たれています。目標は実に大きい。同窓会の三部組織を目指すという。現行の評議員制に加えて職域組織と地域支部組織の充実です。「この広報紙を自分の大字地域に手配りしようと思っている。」と言った役員がおられます。すばらしい。大切なのはこの意欲ではないでしょうか。そしてその輪が一人から二人、十人百人と拡大すればどこにもない、しっかりした同窓会組織が確立されるのも夢ではありません。
この広報紙を通して同窓生同士の絆が深まり「賀茂高校同窓生の誇り」がさらに増すことを期待してやみません。



活性化委員会の面々